

## ～ 自分の使命を発見して、社会の中で生きる・香川綾に学ぶ～

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは今日、高等学校を卒業して新しい世界に旅立とうとしています。聖書の教えでは、あなたに命を与えられた父である神様は、あなたを見守り、ひとり一人をかがえない子として慈しみ、支え、導いてくださると約束しておられます。この約束の言葉は聖書の多くの箇所に記載されていますが、その中から旧約聖書「イザヤ書」を見てみましょう。

「私はあなたの神、主である。

あなたを造り、あなたを胎内にいるときから 形造り、  
あなたを 助けつづけている。

見よ。私は手のひらに あなたを彫り刻んだ。

恐れるな、私は あなたと共にいる 」

皆さん、この神様の言葉を信じて、新たな世界に踏み出しましょう。皆さんが歩み始めている人生は、一回限りです。式の初めに読まれた聖書の言葉のように、「地の塩・世の光」として 固有のいのちを生きるために、皆さんの内にある3つの情熱に気づき、それを使ってください。

先ずその一つの情熱は、「自分の能力や才能を発展させたい」という強い望みを受けとめていくことです。人間は、自分自身に対しての関心が深く、自分の力を磨いて「自分らしさ」を発揮したいと考える存在です。この情熱を使いましょう。

二つ目は、「他の人とかかわり、周囲の人の善や幸福のために働きたい」という情熱です。この現われは自分自身を他の人の幸せにつなげて生きたいという力・愛の力です。この情熱を生かすとき、私たちの能力は2倍・3倍、いや無限の力を発揮します。

三つ目は、命の与え主である方を信じ、その方とのつながりを持つとき、出会う人や出会う出来事から大事なことを学ぶので、自分に託されている使命に敏感に気づく事が出来ます。

皆さんが卒業する今日、私は、自分に与えられた固有の使命を生きた日本の現代栄養学の礎を築いた「栄養学の母」ともいわれる香川綾さんを語りたいと思います。

香川綾さんは、女子栄養大学の創設者であり、その残した業績は多岐にわたります。身近なことで私たちに関係するその一つは、料理のレシピの表現についてです。今では、料理は、本や雑誌やTV番組で紹介されるとき、材料と分量を数量化して、グラムとか大さじ1杯というように、表現するのは当たり前になっていますが、このように表現し、表示するようになったのは、78年前のこと、香川綾さんの努力のおかげでした。料理カードを普及させ、そのために必要な計量カップと計量スプーンも考案し、商品化したのも香川綾さんです。

香川綾さんは、自伝の中で、「母の形見」として次のように語っています。

母は口数の少ないもの静かな人でした。別に言い残したわけではありませんが、私に3つの形見を与えてくれました。一つは、食生活の大切さ。二つ目は、医学への道。三つ目は、神を信じることだったと書いています。

「母は、着物や家財道具より、食事に心を配るひとでした。母の料理で、我が家の食事はいつも楽しくにぎやかでした。あれは私が十歳の頃だったと思います。「宣教師ハドソン夫人からの直伝よ」と言っていた我が家の自慢のクッキーをほおぼっている時、「うちはいいなあ」と言う思いが突き上げてきて、思わず涙がこぼれそうになったことがあります。それが間違いでなかったことを知ったのは、大正3年母が肺炎のために突然亡くなった時でした。母51歳、私は14歳でした。

「あんなに元気だったのに死ぬなんて、医者 of 誤診だ。そのために手遅れになったのだ」 母の死後、私はこう思いつめました。そして、「もし自分が医者だったらお母さんを助けられたかもしれない。自分のように母を亡くし、小さな子が悲しむことのない世の中にしたいそのためには医者になるしかない」と考えるようになりました。

けれども、当時はまだ女医はほとんどいなかった時代です。女性が医学部に進学することは、大変難しい状況でしたが、医学への夢は捨て切れず、ようやく大正 10 年、22 歳のとき、家族を説得して東京女子医専を受験して合格する事が出来ました。

その後、綾さんは、医者になり、東京大学医学部の島菌内科に入局しました。その頃の日本では、脚気というビタミン B 1 が欠乏して起こる病気が蔓延して、「脚気が国をほろぼす」とまで言われていました。脚気治療の研究は、島菌内科ではもっとも大切な課題でした。 そんな中、島菌医師が綾さんにあたえた研究テーマは、「ご飯の炊き方」という、実に意外なものでした。綾さんは、研究室に調理台を作り、くる日もくる日も、ご飯を炊いて実験を続けました。そして 2 ヶ月の後、「胚芽米の炊き方」という論文をしあげます。この研究で、胚芽米にはビタミン B1 が豊富で、脚気の治療になると言うことを突き止めたのです。更に、栄養の研究を続けていくうちに、綾さんはあることに気付きました。それは、料理の「味の決め手は塩分にある」ということです。食塩の量が決まれば、甘みや酢とのバランスなど、ほかの調味料の割合も自然に導き出されます。この気付きから、綾さんは確信しました。「料理を初めて習う人でも、調味量の割合を数字であらせば、すぐれた調理人が作る料理の 80 パーセントは再現できる」と。「料理を数字で表すおもしろい女医がいる」。この評判は、またたく間に広がりました。栄養の知識が普及すれば、すべての人の健康のために大きく役立つと確信していた綾さんは、招かれればどこにでも出向き、栄養の話、食生活の指針について、一生懸命伝えてまわりました。そんな中で、「命の源は栄養にある。生きている限り、人は食べなければならないが、食べ方を間違えれば病気にもなる。正しい栄養知識を広め、病気を予防することが自分の使命なのではないだろうか」。「病気を治す医学に従事するより、栄養改善運動を一生の仕事にし、人々の病気を未然に防ぎたい」と香川綾さんは、思い始めていました。綾さんの歩みは、医者・研究者・人々の健康づくり・食事のとり方・料理・という関連の中に自分の果たしたい使命があると気付き始めます。そして、ついに、昭和 8 年に、家庭食養研究会を設立し、昭和 12 年には、「女子栄養学園」と名称をあらため、現在では、駒込に女子栄養短期大学と専門学校、埼玉県の坂戸に大学と大学院を持つ健康と栄養・食の分野では、第一人者的 教育機関になっています。自分の生まれた環境、親からうけた経験、人生で遭遇したことを活かして、香川綾さんは、医者にとどまらず、料理カード、四つの食品群、計量カップ、計量スプーン、四群点数法・病気になったひとの食事療法・本や雑誌の出版と、綾さんは、たくさんの財産を私たちに遺してくれました。

桜の聖母学院で学んだ私たちに、創立者マルグリット・ブルジョワが望んだ唯一のことは、「心を尽くして神を愛し、また、自分を愛するように隣人を愛しなさい」という教えです。私たちが自分の人生で出会う出来事と自分の中の情熱を大事にしながら、自分に託された使命を発見して、他者を“愛する”という実行をしていきましょう。神様が、皆さんとともにいてくださって、皆さんおひとりお一人の前途を守り、導いてくださいますように聖母マリアの取り次ぎを心からお祈りいたします。皆さんがいただいた固有の命を、自分の人生と言う舞台上で自分らしく、充実して歩み続ける事が出来る強い意志を、お祈りします。

保護者の皆様、お子様のご卒業、おめでとうございます。この三年間桜の聖母学院高等学校にお子様を預けてくださいました。そのご信頼にあつくお礼申し上げます。これから歩みだす方向は、ひとり一人違いますが、お子さん方おひとりお一人の上に神さまの深い慈しみとご加護をお祈り続けています。